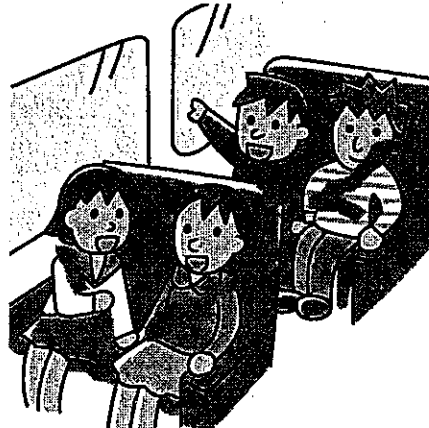


生徒指導部長：栗林

2学期が始まりました。毎朝、ゲートの所に立って児童生徒の皆さんの登校の様子を見ていますが、やる気満々で元気いっぱいあいさつをしてくれる子や、眠そうな目をこすりこすり小さな声であいさつをしてくれる子、全く気がつかない子などいろいろな子がバスから降りてきます。本校の約9割の児童生徒はバスで通学しており、この風景は1学期からずっと続いています。その通学バスが、子ども達にとって気持ちよく過ごせる場であって欲しいと願っています。

私は、今年度バス担当をさせていただいています。1学期には通学バスに関わっているいろいろな問題が出てきました。バスの中がうるさい、ケンカをする、シートベルトをしない、学校に持ってきてはいけない物を持ってきている、荷物を座席に置いて席取りをする…など話題にならない日がないくらいでした。このままでは、みんなにとって気持ちのよい通学バスにはならないと思い、気持ちよく過ごせる方法を考えました。

ひとつは、Jリーダーの活躍です。6月にJリーダー学習会を行いました。その際、バスでのルールやマナーをしっかり確認し、Jリーダーがまず模範になること、そして思いやりの心を持って注意することをお願いしました。異学年と一緒に過ごす通学バスでは、なかなか気持ちをひとつにして過ごすことは大変ですが、Jリーダーが思いやりの心でときには厳しく、ときには優しく、どうしても困ったときは先生の力を借りて、気持ちのよいバスにしようと努力してくれました。毎月あるJバスミーティングでは、バスの中のリーダーとして司会をしてくれたり、注意をしてくれたり、頑張ってくれました。小学生のJリーダーが中学生を注意をし、中学生がすみませんと素直に謝ってくれた話も届いています。



もう一つは、保護者の皆さんの協力です。5月にアパート代表者説明会を行い、保護者の皆さんも気持ちよい通学バスにしたいという思いを同じにして、協力していただけるようお願いしました。その中で、通学バスの横の連携がとれるようにして欲しいという希望が出ました。同じバスに乗る仲間と問題を解決できるように考えてくださいました。バスの乗り込むとき、奥から詰めて欲しいという願いも出されました。みんなが気持ちよく過ごすには、あたりまえのことですが、できていなかったことがわかり、保護者の皆さんにも声がけをしてもらうようになりました。

先生方も頑張っています。登下校時の乗り込み指導です。5月の緊急一斉下校訓練と3学期は下校のバスに、2学期は朝のバスに乗り込んで、乗車の様子を指導します。Jバスの担当は一人1台ずつあります。そのバスが自分の学級のつもりで話をしたり、相談に乗ったり、指導をしたりします。もちろんJバスミーティングにも参加して、一緒に考えます。もちろん、問題ばかりのバスではありません。上級生が下級生の面倒をしっかり見てくれて安心して乗れるバス、違うアパートの友だちが話をしてくれて楽しいバス、ルールやマナーをきちんと守って気持ちよく過ごしているバス、問題があったときアパート代表者の方を中心に話し合っただけで解決できたことを報告してくれたバスなど、まさに気持ちのよい通学になっているバスがたくさんあります。

最後にお願ひがあります。児童生徒の皆さんには「思いやり」の心を持って欲しいと思います。Jリーダーは、「思いやり」の心を持って声をかけてください。優しい声がけで相手が気持ちよく聞いてくれることがあります。ときには「思いやり」の気持ちを持って厳しく言うことも必要かもしれません。また、注意された人は、「思いやり」の気持ちで聞くことが大切です。「思いやり」の気持ちで話が聞ければ、しっかり反省できて、同じ間違いはしないと信じています。こうして「思いやり」の心を通学バスの中で育てて、気持ちよい通学バスになることを願っています。



学校便り SCHOOL NEWS

9月号

植物の「生長」と子どもの「成長」

校長 網田 俊二

およそ3週間ほどの夏休みが終わり、学校は子どもたちの明るく元気な声にあふれ、それを聞いてホッとするとともに、やはり子どもたちの声がしないと学校じゃないなあと感じている次第です。

この夏休み、日本に一時帰国して日本の夏を満喫した話、タイ国内に家族で旅行に行った話など、子どもたちの楽しい思い出話が聞こえてきます。そんな中、中学3年生は、早い生徒で10月上旬には受験を控え、「夏休みどころではない」といった感じだったかもしれません。



さて、夏休みになるといつも思い出すことがあります。それは今からもう20年前の話ですが、東京の都心の学校で5年生の子どもたちとイネを学校の屋上で育てていたときのことです。発泡スチロールに高い土を買って入れ、そして水を入れ、どろどろの土に子どもたちは自分で苗を植えました。苗は埼玉の農家の方にもらいに行きました。早く育たないかなあと子どもたちは毎日観察に行っていました。しかし、夏休みにはいると誰も観察には来なくなります。教師としては本当はイネも白い花を咲かせるところを見せたかったのですが、残念ながら写真でしか見せることはできませんでした。9月の新学期になって、子どもたちは久しぶりに学校に来て、たわわに実ったイネの穂をみて大喜びでした。そんな子どもたちの顔を見て、「この夏休みの間、イネは勝手に育っていったのでしょうか。」と何気なく投げかけたものでした。

いろいろな植物の生長を見ていて、子どもたちの成長と関連して次のようなことを考えました。植物の生長には「適度の水、適度の光、そして適度の肥料」が不可欠ということです。この「適度の」という言葉は、それが多すぎてもいけないし、少なすぎてもいけないということでしょう。水をあげすぎても根腐れしてしまう。肥料を与えないと土の栄養だけでは十分な成長ができない。ふと子どもたちの健やかな成長もこの植物の生長と同じではないかと日頃から感じています。子どもの成長の場がある視点から3つの要素として考えた場合、「学校、家庭、地域社会」がそれに当てはまるのではないのでしょうか。(バンコクでは地域社会の期待は難しいかもしれませんが…)子どもたちは、学校、家庭、地域社会でたくさんの人と出会い、たくさんの体験を通して学びながら成長していきます。そこでの我々大人の役割は、子どもたちの健やかな成長に向けて、それぞれの立場で、時と場に応じて「愛情(褒める、しかる、見守る、諭すなど)」を時には厳しく、時には優しく注いでいくことではないかと思ひます。



「誘拐」一歩手前(迎えに来たんだ)

～～～これは10年ぐらい前の実際の出来事です。そんなに昔のことではありません。～～～

子供たちが次々と乗り込んでいる第2便の約30台の下校バス。校門近くの1台で、見知らぬ男達(A)がバスに乗り込もうと、バスのステップに足をかけました。と、突然大声のタイ語が飛び交いました。

B「子供は降ろさない」

A「その子のお父さんから迎えに行けと頼まれたんだ」

「俺はそのお父さんの運転手だ」

B「学校からの指示がない限り、子供はバスから降ろさない！」

A「D子ちゃんだよ。あの子だよ。顔も知ってるんだ」

B「何と言ってもだめだ。今日は下校バスに乗らない、との連絡は学校から聞いていない！」

C「おうちから迎えるとの連絡はありません。だめです」

バスの運転手のBさんと女性モニターのCさんが、大声を張り上げて男達の侵入を遮ります。立派な体躯をしたBさんの力強く毅然とした拒否、小柄ながら男達の前に立ちはだかったCさん、二人の人間堡壘に阻まれ、男達は、まさに体を張った抵抗に屈し、逃走してしまいました。



バンコクは必ずしも治安が良いとはいえない土地柄です。幼児誘拐で一番多いのが家族から迎えを頼まれた親戚の者、両親の知り合い、近所の者と名乗るやり口です。今回のように、名指しとなると信用してしまう可能性も高かったわけです。父親の名前を知っている、子供の名前も顔も知っているとなつては、バスの運転手さんやモニターさんを信用させるには十分だったかも知れません。が、少しも惑わされず規則を守りとおし、D子ちゃんをバスから降ろさなかったのは、バス会社は学校と一体となって子供の安全を守るんだ、との鉄則と共同歩調が見事に活かされた結果でした。〈中略〉

お父さんから迎えを頼まれたとあって、D子ちゃんをさらおうとした男達が去った後、D子ちゃん宅へ連絡を取り、お母様がいつものように自宅前で待っていることを確認しました。誘拐はこれからも起こりうる事ですので、保護者へ事の次第をお伝えし、登下校時だけでなく、このような男達には十分注意をされるよう、助言しました。

また、D子ちゃんだけが、特に狙われたとは思われませんでしたので、乗車の確認は、一度ではなく、不審な点があれば、バスの発車を遅らせても徹底するよう、バス会社のスタッフ、従業員、それにご家庭に連絡しました。〈中略〉

下校バスにも各車両ごとに乗車リストがあって、乗ってくる子供を一人ひとりモニターさんが確認します。子供たちはバスに乗車すると、あとはそれぞれの自宅やマンションに着くまでは、途中下車は出来ないと保護者との間で取り決められています。〈中略〉

「2時間目からの出席が、結局欠席になったKくん。バスに乗らない」

「今日に限り保護者が迎えにくるので、急に乗らないとの連絡」等々。

各便それぞれに変わる乗車名簿を、変更が出るごとに、正確に把握し、顔と名前を確認していきます。特に(保護者が迎えにくる…)との変更は各家庭からの電話連絡ですが、それは保護者の声を知っている担任の先生が直接確認することになっています。これをバスセンターに連絡するのを忘れないようにと、担任の先生も気を遣います。その責任と忙しさで、毎日が大変です。

海外での子供たちの安全確保は学校だけでは間に合いません。バス会社を始め、回りの多くの人々の協力・連帯があつてこそといえます。

★元日本人学校事務局長 吉野雅雄 著 (2003年3月3日発行)

『思いがけないバンコク日本人社会 日本人学校回想録(その一)』より抜粋、一部改変

これからも、本校では、児童生徒の安全を第一に、「安心して学び、通うことができる学校」を目指してまいりますので、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

| 2009年度 | | 9月行事予定 | | 泰日協会学校 | | 2009年7月15日 現在 | |
|--------|---|--------------------------|--|-------------------|--|-------------------------------|--|
| 日 | 曜 | 児童・生徒 | | 教職員 | | 下校バス | |
| 1 | 火 | 始業式 | | 3年交流学习会打ち合わせ会② | | 11:30 J-BUS | |
| 2 | 水 | | | | | 14:35 P1-2 15:50 P3-6 M1-3 | |
| 3 | 木 | 思いやりの日 | | 研究推進委員会 | | 14:35 P1-2 15:50 P3-6 M1-3 | |
| 4 | 金 | Jバスミーティング | | 5, 6年交流学习会打ち合わせ会② | | 14:35J-BUS | |
| 5 | 土 | 中3参観日 第2回進路説明会 | | | | 10:30 M3 | |
| 6 | 日 | | | | | | |
| 7 | 月 | 委員会活動④ | | | | 14:35 P1-3 15:50 P4-6 M1-3 | |
| 8 | 火 | 小4交流会(ダラカーム校) | | | | 14:35 P1 15:50 P2-6 M1-3 | |
| 9 | 水 | 小3交流会(ダラカーム校) | | | | 14:35 P1-2 15:50 P3-6 M1-3 | |
| 10 | 木 | 5校時授業 | | 教科研究会 | | 14:35J-BUS | |
| 11 | 金 | 中間テスト | | 合同連絡会 小企画会 | | 14:35J-BUS | |
| 12 | 土 | | | | | | |
| 13 | 日 | | | | | | |
| 14 | 月 | | | | | 14:35 P1-3 15:50 P4-6 M1-3 | |
| 15 | 火 | 避難訓練 | | | | 14:35 P1 15:50 P2-6 M1-3 | |
| 16 | 水 | 中3実力テスト | | | | 14:35 P1-2 15:50 P3-6 M1-3 | |
| 17 | 木 | 避難訓練予備 早稲田渋谷シンガポール校入試説明会 | | | | 14:35 P1-2 15:50 P3-6 M1-3 | |
| 18 | 金 | | | 小連絡会 中企画会 | | 14:35J-BUS | |
| 19 | 土 | 小5以上の登校日 小4授業参観 | | | | 10:30 P4 11:30 P5-6, M1-3 | |
| 20 | 日 | | | | | | |
| 21 | 月 | | | | | 14:35 P1-3 15:50 P4-6 M1-3 | |
| 22 | 火 | 小5交流会(本校) | | | | 14:35 P1 15:50 P2-6 M1-3 | |
| 23 | 水 | 小6交流会(本校) | | | | 14:35 P1-2 15:50 P3-6 M1-3 | |
| 24 | 木 | | | | | 14:35 P1-2 15:50 P3-6 M1-3 | |
| 25 | 金 | 中合唱コンクール Jバスミーティング | | 中職員会 | | 14:35J-BUS | |
| 26 | 土 | | | | | | |
| 27 | 日 | | | | | | |
| 28 | 月 | 身体測定(小) クラブ活動④ | | | | 14:35 P1-3 15:50 P4-6 M1-3 | |
| 29 | 火 | 身体測定(小) バス乗り込み登校指導 | | | | 14:35 P1 15:50 P2-6 M1-3 | |
| 30 | 水 | 身体測定(小) | | | | 14:35 P1-2 15:50 P3-6 M1-3 | |

皆様は夏休みをどのように過ごされましたでしょうか。進学を考えて夏休み中に学校を訪問された方も多いと思います。本校では、2学期から入学試験に向けて準備をする受験シーズンが始まります。年内にある入試のうち、本校の教室を借りてする学校もあり、本校受験生の負担をできるだけ少なくなるように配慮しています。2学期は運動会等の行事もたくさんあり、何かと慌ただしいですが、健康管理を充分に行い、たくさんの行事等を楽しみましょう。
進路指導部長 小笠原 直仁